



2010 (平成22)年11月、

日本防災士会の台湾研修旅行が行われた。全国から11人が参加、このうち青森県からは4人。募集人数は40人だったので参加者不足のため一度は中止となったが、台湾政府筋からの強い要請があつて旅行会社も断り切れず、涙をのんでの催行だったと聞いた。

研修が目的なので、朝から夕方まで視察と見学でびっしりの2日間だった。その中でビックリ仰天したのはアジア一とも言われる「内政部消防署訓練センター」である。海外からの民間団体の視察は初めてということで大歓迎され、プレゼンテーションルームで簡単な歓迎式が催され、全員に消防キャップなどの記念品が贈呈されたあと、バスで施設内を見学した。

今月のお題
災害の伝承

ここは広大な敷地の中に、本格的な建物を作ったり乗り物を設置したりして、想定されるさまざまな災害の現場を再現している。火災現場は一般的な建築物のほかに、航空機災害(ボーイング737の機体)、船舶災害(巨大プー

ルに船舶の船体)、大型オイルタンク、大型実物トンネルなど千数種類の訓練現場が設置されていて、訓練管理棟のコントロールセンターでスイッチを入れることにより、各現場ごとに火災が発生する仕組みになっている。台湾の特

種レスキュー隊や全国消防職員などが、消火訓練や救助訓練をしているという。そして、今でも鮮明に記憶に残っているのが国立自然科学博物館の「921地震教育園」だ。1999(平成11)年9月21日未明に台湾中部で

ごい被災状況を、映像や展示物で再認識した。青森県でも青森県消防学校に併設されている「青森県防災教育センター」が近年2度にわたってリニューアルされたものの、来訪者が少ないのは残念だ。県民の皆さんも、機会をつくってぜひ見学してほしいし、行政サイドもPRにもっと力を入れていただければと思う。

防災施設を訪ねよう



発生した、死者2415人、行方不明者29人の大地震(マグニチュード7.3)を後世に伝えることを目的としている。地震で損壊した学校の校舎を中心に保存・展示し、地震の教育センターとなっている。損壊した教室そのものを強化ガラスで補強して保存しているため、今にも崩れそうでもリアルな現場となっていたのが今も目に浮かぶ。

東日本大震災から間もなく7年。どの元過ぎれば熱さを忘れるの(ことわざ)のように、震災直後に高まった防災意識も時間がたつとともに薄れてきたと感じられる。われわれ市民一人一人が常に災害を意識して暮らすのが理想的だが、それが難しいのであれば、大災害を後世に伝承し、万が一のときに被害を最小限にするための一助としてほしい。

【写真上】台湾の「内政部消防署訓練センター」の火災模擬現場【同下】「921地震教育園」で保存されている、大地震で無残に壊れた学校の校舎

日本にも、神戸市に「人と防災未来センター」というのがあり、私は3年前に視察した。阪神淡路大震災のものす

定。青藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住

※次回は2月20日に掲載予定。